1－4　外国産食糧用小麦の需要量

平成29年度の外国産食糧用小麦の需要量は、同年度の食糧用小麦の総需要量572万トンから国内産食糧用小麦流通量82万トン及び米粉用国内産米流通量２万トンを差し引いて488万トンと見通します（表４）。

1－5　外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

このため、平成29年度の備蓄目標は、93万トンとします（表４）。

なお、民間の実需者が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分について、国が保管料を助成します。

1－6　外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）

平成29年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量に備蓄数量の増減分を加えた487万トンと見通します（表４）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途、農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

表４　平成29年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量		A	572
国内産	国内産食糧用小麦の流通量	B	82
	米粉用国内産米供給量	C	2
	計	D＝B＋C	84
外国産食糧用小麦の需要量		E＝A－D	488
外国産食糧用小麦の備蓄数量			
	28年度（見込み）	a	94
	29年度（目標）	b	93
	増減	F＝b－a	0
外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）		G＝E＋F	487

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

2－1　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

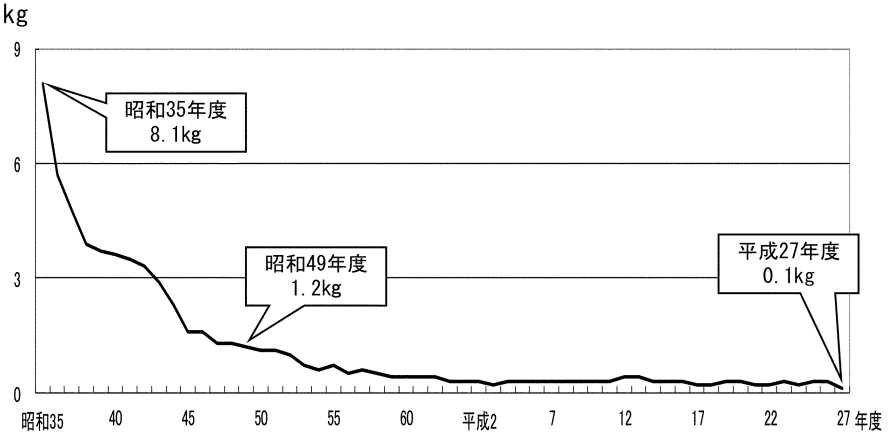
近年、食糧用大麦及びはだか麦の１人当たりの年間消費量は、概ね0.1～0.3kgで安定的に推移しており（図２）、総人口についても、ここ数年では大きな変動がみられません。

他方、平成28年度をみると、健康志向等を背景に大麦及びはだか麦への需要が増加傾向にあります。実際に、はだか麦の輸入量が前年度に比べ約１万トン増加しており、特に、水溶性食物繊維（大麦β-グルカン）が豊富なもち性はだか麦の輸入量が増加するなど、過去のトレンドとは異なる動きもみられるところです。

このため、平成29年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量(注)については、中期的な動向をベースとしつつ、足元の動きを的確に反映する観点から、過去７か年（平成22年度から平成28年度まで）の平均総需要量に、平成28年度に前年度と比べ増加したはだか麦の輸入量を加え、34万トンと見通します（表５）。

(注)　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量並びに政府からの外国産食糧用大麦及びはだか麦の販売数量の合計である。ただし、生産者団体とビール会社との契約栽培により供給される国内産ビール大麦は含まない（以下同じ。）。

図２　食糧用大麦及びはだか麦の消費量の推移（１人１年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」

注：平成27年度の数値は概算値である。

表５　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年度比
平成22	33	98%
23	31	95%
24	34	111%
25	31	89%
26	35	113%
27	33	95%
28見込み	36	109%

29年度見通し
34万トン

（過去７か年平均（33万トン）＋はだか麦の輸入増加分（１万トン））